

# 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	廃棄物対策課	
施策	10	生活環境の保全	評価 責任者	森田 晋	内線 8300
小施策	10-1	環境衛生の確保	評価 シート 作成者	菊池 与志和	内線 8301

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・平成25年度まで増加傾向にあったごみの焼却量は、26年度以降減少傾向にあるが、29年3月の一般廃棄物処理基本計画の改定により設定された目標達成のため、更に計画的にごみ減量に取り組む必要がある。</p> <p>・不法投棄は、農道、林道などの道路沿いや山間部などで多く見られ、また、タバコなどのポイ捨ても依然続いている状況から、引き続き監視やモラル向上への周知、啓発に取り組む必要がある。</p> <p>・クリーンセンターが施設稼働後19年以上を経過しており、ごみ処理広域化の動きを踏まえ、公害防止協定の遵守及び長期稼働に向けて計画的な改修が必要である。</p> <p>・廃止後長期間が経過した三ツ割・門の旧清掃工場や老朽化が著しい資源ごみ分別施設や、粗大ごみ処理施設などの清掃関係施設の計画的な解体・整備を進める必要がある。</p> <p>・岩手・玉山環境組合で処理された焼却灰などの最終処分を行う玉山廃棄物処分場を25年度から再開しており、適正管理に努める必要がある。</p>	<p>環境に配慮した暮らしや活動についての理解が進み、環境衛生が守られるように、家庭や事業所から排出される廃棄物の適正処理を図るなど、生活環境を保全する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
<p>市域及びそこに生活する市民</p>	<p>市民生活の環境衛生を守り、身近な生活環境を良好に保つ。</p>

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(平成30年度以降)
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 焼却施設での年間処理量	t	↘	<p>・焼却施設での処理量が減少している。</p> <p>・市内全域(盛岡地域、都南地域、玉山地域)で、一般廃棄物の適正な処理が行われた。</p> <p>・クリーンセンターにおいては、事業の実施により、排ガス基準値遵守継続日数が2,700日を越え、地域住民との公害防止協定を継続して守ることができた。</p>	<p>・ごみ減量及び資源化に向けた各種取組により、焼却処理されるごみが減少している。</p> <p>・各一部事務組合と密接に連携することにより、市内全域の一般廃棄物の処理が滞ることなく適正に行われた。</p> <p>・クリーンセンターの保守点検業務を確実に実施することにより各種測定機器の状態が良好に維持されているほか、運転監視員が安定運転に係る知識や技術を継続して研鑽習得してきたことによるものである。</p>	<p>★ 旧清掃工場の解体に向けた地歴調査及び解体計画書の策定を行う。</p> <p>☆1 三ツ割清掃工場及び門清掃工場の解体工事を順次行う。</p> <p>★ ごみ焼却施設の設備改修工事については、1工事当りの金額が大きいことから、市クリーンセンターでは、改修費を抑えるための検討を行い必要な整備を進める必要がある。</p> <p>★ 市クリーンセンターは、県央ブロックごみ・し尿処理広域化基本構想の進捗と連携した改修工事計画を総合計画事業に位置付け、計画的に実施する。</p>	
当初値(H25) 96,367	H31目標値 90,784	H36目標値 84,711	<p>・旧清掃工場(旧三ツ割清掃工場及び旧門清掃工場)について、廃止から約20年を経過しながら施設本体部分が残存している。</p> <p>・クリーンセンターは、施設の稼働開始から20年が経過し、公害防止協定を継続して守るためには、計画的な改修工事が必要である。</p>	<p>・旧清掃工場は、解体に係る財源の問題、跡地活用が定まらないことから現状のままとなっていた。</p> <p>・クリーンセンターで策定している設備改修計画を計画通りに進めるための財源確保が難しい状況である。</p>		
指標② 資源ごみ処理施設での年間処理量	t	↗	<p>・市内全域(盛岡地域、都南地域、玉山地域)で、資源物の適正な処理及び資源化が行われた。</p>	<p>・ごみ収集カレンダーや分別辞典などの広報を活用した情報発信、きれいなまち推進員との連携等により、資源となるものの分別の徹底が行われている。</p> <p>・一部事務組合と密接に連携することにより、市内全域において、資源物の適正処理及び資源化が促進された。</p>	<p>★ 資源化促進のため、地区別収集を通じて得られる情報などに基づき、それぞれの地区において推進すべき取組について、懇談会や説明会の開催を通じて周知・啓発を行う。</p> <p>★ 資源ごみ処理施設の更新の方向性について検討を行う。</p> <p>☆1 資源ごみ処理施設の更新の方向性を決定し、具体的な準備を行う。</p>	
当初値(H25) 9,255	H31目標値 9,324	H36目標値 9,382	<p>・資源ごみ処理施設での年間処理量が、減少している。</p> <p>・資源ごみ処理施設(盛岡市リサイクルセンター)の老朽化</p>	<p>・人口減少及び容器包装類の軽量化等による資源の排出量の減少や、店頭回収等の排出方法の多様化に伴い、資源の行政回収が減ってきている。</p> <p>・建物及び設備の更新。</p>		
指標③ 粗大ごみ処理施設での年間処理量	t	↘	<p>・粗大ごみの処理量が減少している。</p> <p>・市内全域(盛岡地域、都南地域、玉山地域)で、粗大ごみの適正処理が行われた。</p>	<p>・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進や事業系ごみの適正処理に向けた周知・啓発活動が成果をあげている。</p> <p>・一部事務組合と密接に連携することにより、市内全域において、粗大ごみの適正処理が促進された。</p>	<p>★ 粗大ごみ処理施設についても資源ごみ処理施設の更新の方向性ととも検討を行う。</p> <p>☆1 粗大ごみ処理施設の更新の方向性を決定し、具体的な準備を行う。</p>	
当初値(H25) 7,459	H31目標値 6,561	H36目標値 5,813	<p>・粗大ごみ処理施設(盛岡市リサイクルセンター)の老朽化</p>	<p>・建物及び設備の更新。</p>		

実績値の推移				実績の評価			
指標④ 生活環境に関する苦情件数		単 位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	80	件	↘	H31目標値		H36目標値	
当初値 (H25)	80	H31目標値	75	H36目標値	70		
<p>※H27の実績値に誤りがあったため、遡って修正している。</p>				<p>・28年度実績の51件から67件と苦情件数は増加したものの、平成36年度目標値の70件を達成することができた。</p>		<p>・事業者等において、作業時に発生する騒音や振動等への配慮がなされている。</p> <p>・騒音、振動、悪臭等の苦情に対して、現地調査や原因者への指導や配慮依頼を行い、苦情の解決に努めた。</p>	
				問題点		問題の要因分析	
				<p>・生活環境に係る苦情として、動物の多頭飼育崩壊に関する通報(悪臭等)や飼主のいない猫による糞尿被害等、動物の不適正飼養に関するものが寄せられている。</p>		<p>・動物を保護収容し、適正飼養管理・返還・譲渡に取り組んでいるほか、動物の適正飼養に関する市民への啓発活動を行っているが、現状は十分ではない。更なる改善・向上を期するためには、盛岡市のみならず、より広域的に取り組む必要があり、岩手県・盛岡市ともに動物愛護思想の普及に寄与する拠点施設(動物愛護センター)が求められている。このことから、県・市による動物愛護センターの共同設置について検討され、当該施設の基本構想が策定された。今後も引き続き当該施設の整備に関する検討が行われる。</p>	
指標⑤ 市営墓園利用率(市営墓園使用区画数/市営墓園墓地数)		単 位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	86.5	%	↗	H31目標値		H36目標値	
当初値 (H25)	86.5	H31目標値	93.9	H36目標値	93.9		
				<p>・利用率が上昇している。</p>		<p>・市民の墓地需要と市営墓園の墓地の供給のバランスが取れている。</p>	
				問題点		問題の要因分析	
				<p>・引き取り手のない遺骨を納める無縁塔については、収容可能な残りのスペースが少なくなっている。</p>		<p>・核家族化や少子高齢化の進展、地縁・血縁の希薄化など、社会環境の変化により、設置した当初と比べ無縁塔に納骨せざるを得ない件数が増加してきている。</p>	
指標⑥ 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される生活環境の保全に係る環境教育、環境啓発事業への参加者数		単 位	目指す方向	成果点		成果の要因分析	
当初値 (H25)	46,552	人	→	H31目標値		H36目標値	
当初値 (H25)	46,552	H31目標値	43,000	H36目標値	43,000		
				<p>・特になし</p>		<p>・特になし</p>	
				問題点		問題の要因分析	
				<p>・H27年度44,000人からH28年度40,210人に減少し、目標値を下回った。</p>		<p>・公立小中学校での環境学習に参加する取組が減ったことや、公民館等の講座の参加数が減ったことにより減少したと見込まれる。</p>	

評価を踏まえた取組の方向性
<p>★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討</p>
<p>★ 引き続き、現地調査や原因者への指導や配慮依頼を行い、苦情の解決に努める。</p> <p>★ 動物愛護センター基本計画を策定する。</p> <p>☆1 動物愛護センター実施設計を検討する。</p>
<p>★ 計画を立案した上で老朽化した施設の修繕・更新及び合葬墓の建立について検討する。</p>
<p>★ 環境教育については、「環境教育副読本の発行」や「きれいな街づくり運動図画コンクール」など環境教育の支援を進めているが、改めて環境教育の取組の呼びかけを行いながら、各校が取り組みやすくなる手法について研究を行う。</p>